

1 浦嶋(宇良)神社 海上の道

伊根町

浦嶋伝説は、「万葉集」などでは、大阪の墨古(住吉)と関連づけられています。御伽草子で一般化する浦嶋太郎の伝承のふるさは、まされもなく丹後国与謝郡の地域でした。浦嶋子の伝承は「日本書紀」の雄略天皇二十二年の条にはつきりと書かれていますように、浦嶋子は丹後の「余社(与謝)郡管川の人」として登場します。

「丹後国風土記」逸文には「日本書紀」よりも詳しい伝承が記載されていますが、「日本書紀」に丹後の浦嶋子の説話が収録されるようになった事情には、持統朝の「撰善言司」のメンバーのひとりであり、大宝律令の撰定に参加した伊予部連馬飼が、かつて丹波宰であったことも関係があると思われる。

京都府与謝郡伊根町本庄に鎮座する浦嶋(宇良)神社は、浦嶋子を主神とし、相殿神に月読命・祓戸大神を奉斎する古社です。「延喜式」にも明記されている式内社で、貴重な数多くの社宝が伝えられています。

重要文化財の「浦嶋明神縁起」・白練緯地桐校土簾肩裾文様縫小袖をはじめとして花菱重甲時絵・玉櫛笥・桐唐草時絵用赤子箱、鎌倉時代の木造狛犬、能面・狂言面(十八面)などにも、浦嶋神社の伝承がしのべられます。毎月三月、おごそかに執行されている延年祭(京都府登録無形民俗文化財)、八月の「宇良神社祭礼芸能」(京都府登録無形民俗

文化財)も神事芸能の息吹を今に伝えます。

「日本書紀」や「丹後国風土記」逸文の説話に海中の蓬萊山(蓬山)や、仙衆(群仙侶)などがみえるのも注目されます。不老長生の神仙思想や道教の信仰が、海上世界の常世の信仰と重層して具体化していることがうかがわれます。蓬萊山は道教の東方海中三神山のひとつで、徐福が伊根町の新井崎の浜に渡来したという伝説が残っているのもたんなる偶然とはいえません。

司馬遷の「史記」には、方士であった徐福が、秦の始皇帝の命令をうけて、東方の仙島に不老不死の仙薬を求めた伝えが載っています。徐福の渡来伝承は佐賀県や和歌山県などにもありますが、北ツ海(日本海)にのぞむ伊根町の渡来伝承は、浦嶋伝承と重なりあつて、古代における海上の道をよみがえらせます。日本海沿岸地域は、大陸文化の表玄関の役割をはたしていました。

「裏日本」という用語は、明治二十八年(一八九三)のころから使われるようになり、明治三十三年(一八九八)に入ると地域的偏見を含むようになり、浦嶋神社の信仰と文化はそのゆがみを照射します。誤った歴史認識をたたくことは、人権文化創造の前提になります。

(上田正昭)



浦嶋神社



浦嶋明神縁起絵巻(掛軸形式)

メモ●「浦嶋神社」は、KTR宮津線天橋立駅より丹海バスで約70分「浦嶋神社前」下車すぐ